

そよかぜ

佐久市社会教育委員だより 第7号
2021. 10発行

「そよかぜ」・・・

このタイトルのように佐久市に 社会教育の風を吹かせ、
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！

前号に引き続き委員からの一言を掲載します。

そよかぜ第6号 掲載		そよかぜ第7号 掲載	
氏 名	所属団体等	氏 名	所属団体等
★中澤 功	佐久市人権同和教育推進員	畠山 文雄	佐久市スポーツ推進委員会副会長
井澤 昭	平根小学校校長	原 英正	佐久市少年センター補導委員協議会副会長
田宮 貴子	学識経験者	和光 智恵子	佐久市文化推進企画委員会委員
小野 忠朝	佐久市地域公民館連絡協議会会長	小山 里美	学識経験者
依田 とく代	学識経験者	奥村 繁子	パートナーシップ佐久会員
佐々木 愛歌	佐久市市民活動サポートセンター	★柳澤 優子	学識経験者

★委員長 ★副委員長

畠山 文雄 委員

前期高齢者の域に達し、心身の衰えを感じているこの頃ですが、体が動く限りはと思い佐久市体育協会に籍を置かせていただいています。また、縁ありまして佐久市スポーツ推進委員をやらせていただいています。

さて、社会教育委員を受けて3期目ですが、いまだに『社会教育委員』とは、『何ぞや』の心境で答えが見つかっていないのが現状です。今、私がやれることは、「体育・スポーツ」への対応を通して、行動していくことと考えています。

その一つとして、体育施設の利用のあり方で気になっている姿を紹介します。

「下駄箱(スリッパ)の嘆き!」

開館前、整然とスリッパが整頓され気持ちよく利用者を待ち受けている。では翌朝の、スリッパの状態は?

- ・前後が逆に収納
- ・一つの枠に複数のスリッパ
- ・床に放置されたスリッパ
- ・更衣室に置かれたスリッパ等・・・。

次の利用者のことを考えた、思いやりのある行動の姿が見られないことに残念な気持ちになります。

禅語に『看却下(かんきやつか)』『脚下照顧(きやつかしょうこ)』があります。

<履物を揃えよ、わが身を振り返れ>という意味とか。

3月、地区の役員改選で、補導委員を依頼されました。地域の子どもたちに触れ合う機会も少なくなってきたので、快く引き受けました。6月からは夕方の街頭補導が始まりました。公園やトイレ等、今まで何となく見過ごしていたところに目がいくようになりました。出会う子どもたちの爽やかな挨拶が救いです。

日頃は佐久教育会に勤務し、日々、学校の先生方と会議を重ねています。コロナ禍の中で、子どもたちや先生方の奮闘ぶりに頭が下がる思いです。何か少しでも役立てればと思っています。

社会教育という点では、赤十字奉仕団推進員として、防災学習や新型コロナ感染対策に取り組んでいます。災害の多く発生している昨今、大切な命を救うことに役立てたらと思っています。

社会教育委員の会議にも何回か参加させていただきました。行政の方々はじめ、委員さん一人ひとりが輝いていて、この方々と一緒なら何かできるかもしれないと感じているこの頃です。たくさんの出会いを楽しみにしています。



座っていても

できますよ

立ったままでも



みなさんは佐久市市歌「佐久・わが市」をご存知でしょうか？ 実は、私は最近まで知りませんでした。聴いてみると佐久市の特徴が書かれた優雅で壮大さを思わせる詩と、親しみやすく耳覚えの良い素晴らしい市歌でした。ならば、ここに誰でもすぐに覚えられて踊れる踊りを、座ってでも、寝ていてもできるものを作ってみようと思い、振付してみました。

この『佐久・わが市』の曲が流れたら「あっ佐久市の市歌だ。歌えろし踊れろ。」と誰もが思ってもらえる市歌になることを期待し、夢として提案します。もしこの夢が叶うのであれば、お伝えする手段として、学校教育の場、市内の施設、会社など佐久市内のどこにでも出向きたいと思っています。

小山 里美 委員

委員を務めさせていただく事になりました小山里美と申します。よろしくお願い致します。

お話をいただくまで、社会教育委員という存在を知りませんでした。「私に何ができるか…」という不安もありますが、自分自身の知識を深めるためにも、活動を通して勉強をしていこうと思います。

先日、初めての社会教育委員会議がありました。様々なことに取り組んでいるメンバーの方々のお話をお聞きするだけでも、とても興味深い、発見のある時間となりました。今後の活動の中でも、得るものがたくさんありそうで今から楽しみです。

私は普段は3人の子育てをする母でもあります。現在、中学生、小学生、保育園児…と子育て真っ最中中です。仕事では小さなお子さんと親御さんに関わることも多いです。子育て世代や子どもたち、また親世代にも伝えたり、繋いだりする活動ができればいいなと思っています。



8月 第3回社会教育委員会議
佐久市立近代美術館・文化財事務所考古遺物展示室視察

奥村 繁子 委員

社会教育委員になって7年目です。

一年を通して、婦人会の仲間と一緒に小学校での学習支援ボランティアや児童館においての放課後寺子屋教室、朝のあいさつ運動を行っています。子どもたちが無限の夢をもち、楽しく学校に通えるように願っています。

また、環境問題に関する活動として、佐久平駅周辺のゴミ拾いや、自分たちに出来る地球温暖化防止への取組み、年に一度手軽にできる料理教室等みんなで話し合いながら、婦人会のメンバーだけではなく、賛同してくれる人と協力して、今できる事を少ない人数ですが、それぞれ都合をつけて活動しています。

今は新型コロナウイルスの影響で中止になってしまう事もありますが、コロナ禍でもできる事を考えやっています。続けることは大変ですが、是非、参加してみたいという方がおりましたら気軽に声をかけて下さい。お待ちしております。





『「木の人」を目指して』

私のバックグラウンドは保育士です。福祉関係の仕事の他、警察・文化・スポーツ・公民館・人権関係等のボランティア活動を広く経験してきました。社会教育は教育関係の中でも広く奥が深いです。社会教育委員としてまず自分ができることから始めようと、学校支援のコミュニティスクール推進委員、運営委員、地域の子どもたちの安全安心を見守る「みまもり隊」に参加しました。「みまもり隊」は賛同してくれた地域の方々や仲間の方々と毎朝、通学道路や信号のある交差点、地域中での見守り活動をし9年になります。皆さま毎朝ご苦労様です、本当に感謝です。おかげさまで無事故です。今では隊員から「楽しい、生きがいになるヨ」との感想が聞かれうれしく思っています。また、高齢者社会に伴い一人暮らし、高齢者夫婦世帯、空き家が増えました。コロナ禍で外出できない高齢者のひきこもりや、治安の維持にも気をつけ支援や声がけをして18年になります。

社会教育委員として培った中で感じる事は、地域コミュニティーを持続可能・維持するには、受容・共感・傾聴・多様性・共働というコミュニケーション能力が不可欠であるということです。目指すところは「木の人(地域に広く根をはり根付き次の世代につなげる人)」（長野大学早坂教授の表現による）です。ひき続き自己研鑽し明るく楽しい仲間作りをしていこうと思います。地域の課題として、グローバルに対応できる人材、コロナ禍で不安定になっていると思われる若者の支援にも目を向けていきたいです。

『一人ひとりにとってのいのちと生き方のかけがえなさ。それこそが「個人の尊厳」。そういう個人であってこそ、その自分たち自身が互いに絆を結び合うことができるでしょう』（憲法学者樋口陽一博士）。「尊厳を守る」は、どんな場所・場面にも共通する事だと思います。

■ 編集後記

社会教育委員だより「そよかぜ」第6号・第7号にわたり12名の社会教育委員の現在までの活動や、社会教育委員として、また一個人としての今後の活動についての抱負を掲載しました。コロナ禍の今、そしてアフターコロナの時代の社会教育の形とは何か、また地域社会の在り方や人と人のつながり方等々の課題について、多種多様なメンバーにより模索しながら取り組んでいこうと思います。活動は社会教育委員だより「そよかぜ」で発信していきます。

【発行】佐久市社会教育委員

〒385-8501 佐久市中込3056 佐久市役所南棟3階 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課
☎ 0267-62-0671 FAX 0267-64-6132 e-mail syogaigakusyu@city.saku.nagano.jp